

## 平成24年 第13回教育委員会会議録

### 1 日 時

平成24年10月9日(火)

開会 16時00分

閉会 17時11分

### 2 場 所

教育委員会室

### 3 出席した委員

中村健一委員長職務代理者、八重澤美知子委員、横山真紀委員、  
金田清委員、橋正徹委員、木下公司教育長

### 4 説明のため出席した職員

宮崎良則教育次長、池廣嚴雄教育次長、新屋長二郎教育次長、  
平畠敏彦教育次長兼学校指導課長、高松巧庶務課長、道端祐一郎教職員課長、  
坂井芳子生涯学習課長、中川智夫文化財課長、濱辺正実スポーツ健康課長

### 5 委員長選挙の結果

委員6名による投票の結果、金田清委員を教育委員長に選任することに決定

### 6 議案件名及び採決の結果

議案第30号 石川県立高等学校規則及び石川県立特別支援学校規則の一部改正について  
(原案可決)

議案第31号 平成24年度石川県優秀教員の決定について (原案可決)

### 6 報告案件

報告第1号 平成25年度石川県公立学校教員採用候補者等の選考結果について

報告第2号 教員志望大学生実力アップセミナーについて

口頭報告 ぎふ清流国体における本県選手団の結果について

追加報告 平成24年度いしかわマスター教員の決定について

### 7 審議の概要

#### ・開会宣告

中村委員長職務代理者が開会を告げる。

#### ・委員長選挙執行

委員6名による投票の結果、金田清委員を教育委員長とすることに決定。

・会議の公開・非公開の決定

議案第31号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

議案第30号「石川県立高等学校規則及び石川県立特別支援学校規則の一部改正について」  
(平島教育次長兼学校指導課長説明)

資料の1ページをお開きください。提案理由であります。平成25年度における第1学年募集定員の策定により、高等学校の収容基準生徒数を変更する必要があること、及び平成25年度における第1学年募集定員の策定により、特別支援学校の収容基準生徒数を変更する必要があるためでございます。

なお、収容基準生徒数というのは、当該校の全学年の募集定員を合計したものであり、今回提案の来年度の収容基準生徒数につきましては、現在の第1学年、第2学年及び来年度入学する新1年生の3学年、定時制高校においては、現在の1、2、3年生及び新1年生の4学年、専攻課程においては、現在の1年生及び新1年生の2学年の合計となります。根拠法令につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第33条であります。改正案につきましては、5ページから11ページにお示ししてございますが、説明につきましては、2ページからの新旧対照表で説明をさせていただきます。

2ページをお開きください。表の右側が現行で、左側が改正案でございます。なお、太枠で囲った部分に変更箇所でございます。それでは、高等学校規則の変更箇所からご説明いたします。

まず、学科の改編に伴いまして、小松工業高校につきましては、平成25年度より機械システム科、機械テクニカル科、電子情報科、建築土木科、マテリアル科の5学級が募集停止となりますが、新たに機械科2学級、建設科1学級、材料化学科1学級を開設し、電気科を1学級増といたしましたので、収容基準生徒数の変更はございません。

次に、津幡高校につきましては、体育科が募集停止となり2学級減となりますが、新たにスポーツ健康科学科2学級を開設いたしますので、収容基準生徒数の変更はございません。

また、七尾東雲高校につきましては、テクニカル工学科、デジタル工学科、総合学科の4学級が募集停止となりますが、新たに電子機械科2学級、経営総合学科2学級を開設いたします。しかし、平成23年度における総合学科の1学級減に伴いまして、収容基準生徒数は40名の減となります。

次に、先般策定いたしました平成25年度の募集定員の増減に伴いまして、収容基準生徒数は、加賀高校、小松明峰高校、金沢伏見高校の3校で40名の減となります。これは、平成24年度卒業生との増減によるものです。なお、金沢西高校についても募集定員の変更がございましたが、卒業生との入れ替えの中で、収容基準生徒数の変更が生じないということになります。

その他、平成23年度、24年度における募集定員の増減に伴いまして、金沢二水高校が40名の増、金沢錦丘高校、金沢商業高校、金沢桜丘高校、金沢北陵高校、能登高校、飯田高校の6校が40名の減、志賀高校が80名の減となります。

高等学校規則については、以上でございます。

次に、4ページをお開きください。石川県立特別支援学校規則の一部を改正する規則でございます。特別支援学校については、義務教育である小学部、中学部を除き、募集定員で定めた全ての生徒が収容できるように収容基準を変更いたします。収容基準生徒数につきましては、それぞれの学科の修学年限に相当する数を合計したものであります。変更となる箇所を太線で囲んでありますので、ご覧下さい。

以上で説明を終わります。ご審議の程、よろしくお願いいたします。

#### 【質疑】

(金田委員長)

立場が変わり感じたことだが、資料にわかりにくい部分が散見される。誰が見ても理解できるよう工夫してほしい。例えば、本議案の資料については、全体数の変化がどの学年の生徒数の増減によるものなのかということが、読み取ることができない。

(平島教育次長兼学校指導課長)

来年度の募集定員を変更した学校を中心に説明する。まず加賀高校については、現在、各学年3学級、計9学級となっているが、来年度は第1学年が2学級、第2学年及び第3学年が3学級の計8学級となるため、1学級分40名の減としたい。次に小松明峰高校については、現在は第1学年及び第3学年が7学級、第2学年が6学級の計20学級であるが、来年度は第1学年から順に6学級、7学級、6学級の計19学級となるため、1学級分40名の減、金沢伏見高校についても8学級、7学級、8学級の計23学級が7学級、8学級、7学級の計22学級となるため同じく1学級分40名の減としたい。また、金沢西高校については、募集定員を減らすこととしたものの、現在の9学級、8学級、8学級が8学級、9学級、8学級となるため全体数に増減がない。一方、金沢二水高校については、募集定員に変更はないが、現在の10学級、9学級、9学級が来年度は10学級、10学級、9学級となることにより、全体で1学級分40名の増としたい。

(金田委員長)

採決を求める。

(全委員)

異議なし。

報告第1号「平成24年度石川県公立学校教員採用候補者等の選考結果について」

(道端教職員課長説明)

資料の14ページをお開きください。教諭及び養護教諭につきましては、受験者総数1,518人から採用候補者として、昨年度と同じく350人を選考いたしました。この結果、競争倍率も昨年度と同じ4.3倍でありました。合計欄の括弧書きの数字がありますが、正規教員としての勤務経験を有する受験者を対象とした、選考区分Ⅳの

結果であり、受験者60人の中から、21人を選考しております。また、採用候補者を受験区分別に見ますと、小学校が176人、中学校及び高等学校が158人、養護教諭が16人となっております。なお、受験区分及び教科別における、採用候補者の内訳や倍率は、次ページのとおりでございます。

今回の選考においても、教科の専門性や指導力、実践力のある優れた人材がえられたものと考えておりますが、更に資質能力を磨き、指導力の向上を図るため、研修の一層の充実に努めてまいりたいと思っており、その第一歩として、採用内定者が、4月から自信と熱意を持って教職生活をスタートできるように、11月から2月にかけて、採用前研修を実施することとしております。

次に、現職の学校栄養職員を対象とした栄養教諭の特別選考につきましては、受験者12人から4人を採用候補者として選考しました。

なお、選考結果につきましては、いずれも去る10月5日午後3時、採用候補者の受験番号を公表するとともに、全受験者あてに結果を発送したところであります。

以上でございます。

#### 【質疑】

(八重澤委員)

受験可能年齢と、採用内定者のうち新卒者がどれ位いるのか聞きたい。

(道端教職員課長)

採用される平成25年4月1日時点で、50才未満の者が受験可能である。また、内定者350名のうち110名が新卒見込みの者であり、内定者全体に占める割合は31.4%と昨年の98人、28%から増加している。

(中村委員)

採用前研修は重要な研修であると思うが、対象者は希望者のみとのことである。やむを得ない事情を有する者を除いて、採用前研修への参加を義務化することはできないか。

(木下教育長)

法的な問題があり、採用前研修への参加を義務付けることはできないが、本県の教員として採用されるにあたり、基本的に参加して頂きたいという思いはある。

(八重澤委員)

採用前研修の参加率はどの位か。また、内定者のうち、新卒見込みの者の割合が増えたとのことだが、受験者全体のうちの新卒見込みの者の割合も増えているのか。教育長を中心に、大学に出向いて実施した説明会の成果が現れているのかが気になる。

(木下教育長)

受験者の内、現役の大学生が占める割合は確実に増えている。

(道端教職員課長)

教育長や担当者が、各大学で実施した説明会の成果が現れていると感じている。採用前研修の参加率については、詳細なデータは手元に無いが、毎年、欠席者は数名程度と聞いている。

(中村委員)

内定者には、競争試験を勝ち抜いたという意識を持ち、やむを得ない事情が無い限り、採用前研修には是非参加してほしい。

(木下教育長)

決して強制はできないが、採用前研修に参加して欲しいという思いは同じである。

## 報告第2号「教員志望大学生実力アップセミナーについて」

(道端教職員課長説明)

資料の16ページをお開きください。ご存じのように、教員の大量退職、大量採用時代を迎え、今後の教員の急激な世代交代が現実視されている現在、本県の教育を担う優れた人材の確保は、喫緊の課題となっております。そのため、本県教員採用試験を目指す学生を対象としたセミナーを開催し、教員として必要なコミュニケーション力や基礎的な指導力の向上を図り、即戦力として活躍できる教員を養成したいと考えております。期日は、ご覧のとおりA、B2つの日程を用意し、それぞれ3回ずつ実施します。対象は、本県の教員を目指す県内外の大学3年生、大学院1年生で、A日程、B日程とも、各70名を予定しております。講師には、優秀な退職教員を活用するほか、現職教員、県教育センター指導主事も指導に当たることとしております。会場は、県教育センターであります。第3回については、県内の公立学校へ出向き、ベテラン教員の実際の授業を参観する予定であります。

内容につきましては、第1回は、本県の求める教師像や本県の教育についての講義のほか、子どものほめ方やしかり方についてロールプレイ等を通して学びます。第2回は、ベテラン教員の授業DVDを用いた授業づくりの講義のほか、指導案の作成や模擬授業等、導入の工夫についての演習を行います。第3回は、先程も申しましたが、学校へ行き、ベテラン教員の授業を参観した後、授業づくりの工夫や児童生徒との関わり方等について、ベテラン教員や若手教員との懇談を行うこととしております。

なお、募集案内のパンフレットを配布させて頂いております。このパンフレットを県内外の大学に送付し、学生への周知をお願いしたところであります。

以上でございます。

【質疑】

(中村委員)

優秀な教員を確保、養成する必要がある中で、新卒の教員が増えるということに、経験や人間力という点で若干の不安を感じている。国際競争が激化する中、子ども達にこれからの世界を生きる力を身に付けさせるためには、まず教員がそのような能力を身に付けなければならない。学力も当然必要ではあるが、人物にも着眼した教員選考を行い、かつ人間性を向上させる研修も必要であると考えている。

(木下教育長)

採用候補者の選考に際しては、筆記試験の結果だけではなく、面接や模擬授業を通して、人間性も含めた選考を行っている。また、研修についても、教科の指導力向上だけではなく、子ども達に生きる力を身に付けさせることができるよう、人間性も含めた、各教員の能力向上に努めていきたい。

(中村委員)

教員研修も多種多様に増えていることは承知しており、熱意のある教員も増えていると感じている。しかし、民間のように時間をかけて人材育成を行える世界とは異なり、教員は新卒であっても、子ども達の前に立った瞬間から一人の教員であるということを、改めて意識しなければならない。

(木下教育長)

教員研修制度改革に向けた検討を進めているが、OJTという形で、新採教員を現場の組織の中でどのように育てるかという視点と、教育センターを中心に実施する研修の充実を図るということを両立させたい。現場は多忙とのことだが、しっかりと考えていかなければならないと考えている。

(金田委員長)

前例踏襲ではなく、研修内容については常に検証を重ねてほしい。

(金田委員長)

報告第2号に関する質疑を終了し、その他、報告事項がないか確認。

(濱辺スポーツ健康課長)

本日、ぎふ清流国体が終了し、先程その総合成績が明らかになった。本県は天皇杯で904.5点を獲得し、26位であった。目標としていた1,000点には及ばなかったが、2年振りの20位台を確保することができた。各種目の成績については、相撲成年男子が2年振りに優勝した他、水泳成年女子高飛び込みで中川選手が2種目制覇、カヌー成年女子で笹生選手が7連覇、カヌー成年男子で松下選手が2年振りに優勝、陸上1万m競歩で鈴木選手が優勝するなど、3競技5種目で優勝者が出た。今後とも、体育協会や各競技団体と連携を密にし、来年東京都で開催される国体を目指して、競技力向上を図っていききたいと考えている。

(金田委員長)

以降の審議については非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第31号「平成24年度石川県優秀教員の決定について」(非公開)

道端教職員課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

追加報告「平成24年度いしかわマスター教員の決定について」(非公開)

道端教職員課長が説明した。

・閉会宣告

金田委員長が閉会を告げる。